嚢1個あたりの胞子数は32個で，胞子体の体細胞染色体数は約 2n=108 であった。配偶体と胞子体の観察結果から，石垣島のミツデコケシダは3倍体の真性無配生殖種であると認めた。そして田川教授達および著者が採集した石垣島産の標本は，今まで採集された本種とは外部形態的に多少異なっている。また，この資料の若い胞子体では，根茎と葉との分化が明瞭でないことが観察された。詳細については今後の研究をまちたい。

□ 中井猛之進： **朝鮮森林植物編** I-XXII 附総索引 覆刻版，国書刊行会，東京 全10巻
NAKAI, T.: Flora Sylvatica Koreana, I-XXII with general index republished by Kokusho-kankokai, Tokyo, 1976, I. ¥95,000. 中井先生の朝鮮森林植物編は，先生の25年間にわたる労作であり，朝鮮総督府が世界に対して行った貢献の一つであって，その真価は日本国内よりも外地において甚だ高かった良書である。それが近来の古書覆刻の波に乗って再版されたことはまことに喜ばしいことであった。今その著を前にして，先生の研究の壮大なことに感じ入るのは，あながち小生一人ではないであろう。

覆刻に当っては，2-3巻をまとめて1巻とするなどして9巻にまとめ，さらに東京都立大学理学部牧野標本館の手になる，学名，和名及び朝鮮名の総索引1巻を加えて，全10巻としたのは，従来索引のないための不便を償って余りあるものであった。

各巻共に主要なる引用文献，朝鮮産その科の研究の歴史，朝鮮におけるその科の分布の概況，効用，分類と各種の図説という風に編集され，ことに最後のものが各巻の主要部を占め，かつは日羅両文から成り，また精巧な銅版による図版が添えられている。何しろ25年にわたる出版だから，研究も次第に高昇して，あとの方ほど科や属の区分，節の新設も目立ち，第21巻の如きは Rafflesiales 目の新設，Nandinaceae の独立，*Asiasarum* の設立など，内容は大変に発展している。第18巻のヤナギ科の花部構造と花の発達論もユニークな論議であって，これらが比較的見易くなったことは喜びにたえない。一，二気づいたことを添記すると，各巻は年次を異にして出版されたこと故，その出版年代を明記してほしかったこと，第12輯のホルトノキの図版 t. 17 の脱落は惜しい。 (前川文夫)

□ E. H. WALKER: **Flora of Okinawa and the southern Ryukyu Islands** pp. ix, 1159, plates 18, figs. 185, Smithsonian Institution Press, Aug. 1976, $36.75. Walker 博士が1951年に初めて沖縄本島を採集して以来，全精力をあげて努力されたこの大著が出版された。その仕事は園原，多和田，天野の諸氏との協力が始まり，著者自身の前駆的な小著の出版を経て，米本国側の公式なプロジェクトにのり，幾多の